# APRICOT 2016　参加報告書

提出日：2016 年 3 月 22 日
作成者：武井　裕美

## 1. APRICOT 2016　開催概要

◆日程：2016 年 2 月 22 日（月）～2 月 26 日（金）※参加は Conference のみ
◆会場：SkyCity Convention Centre (Auckland, New Zealand)

## 2. 参加したセッション

5 日間で合計 25 のセッション（ソーシャルイベント含む）に参加した。
選択基準は以下の 3 点である：

① アジアのネットワークに関する内容であること
② 自身の業務に関連性がある / 自身が高い関心を寄せる 内容であること
③ 参加必須であること

なお、太字下線は特に印象的だったセッションを示しており、次項目にて詳細を記述する。

◆Day 1：2 月 22 日（月）
Newcomers Orientation Breakfast (Social)
IPv6 Address Planning (Tutorial)
Routing Registry Function Automation using RPKI & RPSL (Part2) (Tutorial)
**Opening Ceremony and APRICOT Plenary I (Session)**
APOPS Plenary I (Session)
APRICOT Opening Social (Social)

◆Day 2：2 月 23 日（火）
APOPS Plenary II (Session)
Cooperation SIG (Session)
**Tech Girls Get Together (Social)**
Network Operations (Session)
RIPE Atlas Monitoring Tutorial (Tutorial)

◆Day 3：2 月 24 日（水）
APNIC Global Reports (Session)
Making ends meet：IPv4 exhaustion and the transfer market (Session)
**NOG Updates (Session)**
Network Measurements (Session)
Meet the APNIC EC Cocktail (Social)

◆Day 4：2 月 25 日（木）
APNIC Policy SIG(1) (Session)
Troubleshooting BGP (Tutorial)
<u>Network State Awareness and Troubleshooting (Tutorial)</u>
APRICOT PlenaryⅡand Closing Ceremony (Session)
APRICOT Closing Social (Social)

◆Day 5：2 月 26 日（金）
<u>APNIC AGM (1)~(3) (Session)</u>
APNIC Closing Dinner (Social)

**3. 特に印象的だったセッション**

**◆Day 1：Opening Ceremony and APRICOT Plenary I (Session)**

序盤にニュージーランドの民族舞踏である「Haka」が披露された。会場内の全員が息を呑み注目した迫力満点のパフォーマンスは圧巻。現地に来たことをはじめて実感した。その後は基調講演として、Scott Bartlett 氏（Kordia）と Sunny Yeung 氏（Telstra）が壇上に立った。Scott 氏は ①Cyber Security ②Internet of Things ③Changing world of TV の 3 点、Sunny 氏は Next Generation Network Architectures について講演を行った。

Internet of Things をはじめ、ますます多様化する選択肢の中で何を選ぶのか？行き交う情報を正しく理解し、「利便性」や「快適性」など自分なりの基準に合致する使い方を認識していきたい。変化著しいインターネットの世界では、顧客ニーズも高度化しているが “All the Buzzwords are great for customers and carriers. But Analyze! Analyze! And Analyze!”、“Use your current investments wisely.” という Sunny 氏の言葉通りであると感じた。新サービスや流行ものは魅力的に映るが、本質を追求するために分析を繰り返す一方、既存の環境を賢く活かす知恵も必要になる。現状と未来、そして+α.…多角的視点で各々をバランス良く捉えていく力が求められていると感じた。

**◆Day 2：Tech Girls Get Together (Social)**

当初は、同じ通信業界で働く女性同士、和気藹々と話をしながらランチを楽しむ内容なのかと、些か呑気に構えていた。ところが蓋を開けてみると、男性が多い通信業界で働く女性たちの本音と熱い気持ちが垣間見える内容であった。途中、参加者の一人が『なぜこの様子をビデオ録画しているの』と発言し、録画の中断を要求した背景にも、自身の経験や率直な意見を皆に伝えたいという強い想いがあったからだろう。各々が感じていることを忌憚なく共有し合える環境づくりの大切さを感じた一幕でもあった。

結婚、出産・育児等、様々なターニングポイントにより、時には選択を迫られ「諦める」ことが必要になるのかもしれない。しかし、私自身は「諦める」という言葉を否定的な意味で使いたくないと常々考えている。一説によれば「諦める」の語源は「明らめる」といわれており、そこには「物事を明らかに見る・認識する」というような意味が宿っている。

私自身も、これから人生を歩んでいく上で、女性としての迷いや葛藤に直面することが幾度となくあるだろう。だが、迷いや葛藤が人を成長させることもまた事実である。加えて、それらの経験をいずれ何かしらのかたちで伝えていくことにより、もしかしたら次世代の女性たちが考えるヒントのかけらになるかもしれない。私はこれからも、その都度物事に正面から向き合い、明らかに見極めていくことで、自分らしい選択をし続けていきたい。

Catherine Pearce 氏による“We are not fighting alone. Even if you are, you are fighting for yourself.”という言葉が、女性としての、人間としての強さを象徴するようで非常に印象的であった。

**◆Day 3：NOG Updates (Session)**

他国・地域における NOG (Network Operators Group)の活動報告や今後の予定紹介等を行うセッション。日本は勿論、自国以外での運用にも大変興味があったため、是非とも参加したいと感じていた。日本の NOG である JANOG を皮切りに、HKNOG (Hong Kong)、bdNOG (Bangladesh)、pacNOG (The Pacific)、SANOG (South Asian)、NANOG (North American)が次々と発表を行った。

自分たちの国・地域の通信をより良くしていきたいという気持ちは万人共通であることを実感。各々の活動が凝縮された本セッションは、非常に興味深いものであった。各 NOG による各フィールドでの取組継続・展開は勿論のこと、定期的に皆が一堂に会して近況を共有し合うことは、互いに良い刺激となり、更に高め合える絶好の機会であるに違いない。JANOG の吉村知夏氏や bdNOG の Nasrin Akter 氏のように、女性の方々が各 NOG の代表として、堂々とスピーカーを務めていた様子も特筆すべき点の一つである。

今後は JANOG のみならず、他の NOG についても定期的に HP を訪問したり、今回の APRICOT で知り合った方々に実際の様子を伺ったりしていきたい。

**◆Day 4：Network State Awareness and Troubleshooting (Tutorial)**

自分が現在従事する業務に通ずる内容ということもあり、楽しみにしていたセッションの一つであった。この場では、基本的なネットワークのトラブル解決事例や、障害に対処するための技術・役立つツールが紹介された。“Think like a Network detective!”をはじめ、スピーカーの Faraz Shamim 氏による言葉の多くが、トラブルに立ち向かう上でのあるべき姿を表しており、心に響くものばかりであった。こうした基本的な心構えは、日頃分かっているつもりでいても、トラブル発生時等いざという際にはつい忘れがちである。一語一句聞き逃すまいと、夢中になって手元 PC のキーボードを叩いた。書き留めた多くの言葉を、日々振り返る習慣をつけるとともに、いま一度初心に立ち返って業務に取り組みたい。また、私自身はお客様対応を行う担当として、相手に不安を与えない対応を心がける必要がある。本セッションで得たものを最大限に活かすためにも、経験・知識・技術の三本柱を着実に養っていかなければならない。

◆Day 5：APNIC AGM (Session)

最終日はAPNICの年次総会が行われ、各種報告や次期EC (Executive Council：理事会)メンバーの選出が行われた。途中、Open micでの以下のようなコメントが印象に残った。—『APRICOTはアジア太平洋地域の会議であり、英語を母語としない人々が大半を占める。話すペースを緩める等、ネイティブスピーカーの方達に配慮をお願いしたい。』

会期中、多くの方達と言葉を交わす機会を得たが、やはり人によっては話すスピードが非常に速かった。日常会話であればまだ対応可能であるが、セッションとなると聞き取りが一部困難になるだろう。お互い今以上に理解し合うためにも、ネイティブスピーカーの方々による配慮に期待するといった受動的な姿勢のみならず、非ネイティブの私達も、日々向上に努める能動的な姿勢が大切ではないかと感じた。

## 4. 全体を通して

大変充実した日々を過ごすことができた。技術や仕事に関する子細な話をするには、まだ不勉強な私であったが、会期を通じて様々な方達と触れ合うことができた。振り返れば、自分が思っていた以上に笑っていることが多かったように感じる。今後は技術力に更なる磨きをかけ、仕事に関する知識・話題も豊富になるよう地道に努力していきたい。

フェローシップ委員会の皆様をはじめ、参加メンバー、日本ならびに各国・地域からの参加者、会場等関係者の方々には温かく迎え入れて頂き、本当に感謝の一言に尽きる。また、本プログラムへの参加を応援して下さった理解ある職場の方達に対しても同様である。一期一会という言葉のように、人との縁を大切にしたいと改めて感じた。

今回、参加報告の資料作成を通じて、いま一度「自分らしさ」について考える機会を得た。一言では到底表し切れないほどの、経験・学び・所感等々をどのように纏め上げるのか。数ある思い出が自身の内で蠢くなか、自分が特に伝えたいこと・残していきたいことは何なのか。「報告書」に対する自身のイメージから、パワーポイント資料ともに当初はもう少し堅実に纏めることも考えたが、次回以降の参加を考えている方達が『自分も是非！』と感じてもらえるような内容を意識した。その上で、私自身が都度どう感じ何を考えたのかを中心軸に据えながら、自由に纏めた。稚拙な内容ではあるが、願わくはこの報告書が、少しでもこれからの方達への参考になれば幸いである。

会議参加を終え、本格的に自身の業務に戻っていくなか、参加以前から変わらない信念がより強固なものになったように感じる。それは『自分が置かれた状況下で常にベストを尽くす』こと。目の前のことに着実に取り組み、且つアンテナを高く広く張り巡らせることにより自ずと道は拓けていく—そのことを改めて教えてくれたのが今回の支援プログラムでもある。これまでの自分があったからこそ今の自分があるし、これからの自分にも繋がっていく。本プログラムの応募時もそうであったように、自分が『これだ！』と閃いたら素直に従うような第六感も大切にしつつ、チャンスがふっと舞い込んだとき、躊躇することなく手を挙げられるよう日頃から備えておきたい。

## 5. 支援プログラムに対する所感

出発一週間前に行われた事前情報交換会により、フェローシップ委員会の方々や参加メンバーとの事前対面を果たし、不安・緊張が大きく軽減されたのは言うまでもない。加えて、各セッション概要を紹介頂いたことは、自身が参加セッションを決定する上での道標になった。参加セッションの選定にあたって、私自身は事前に該当 HP を参照したり、職場の方に相談させて頂いたりしていたが、更に各々のイメージが沸いた。

会期中においても委員会の皆様には大変お世話になった。ソーシャルイベントやお食事会が行われた際には、沢山の方を紹介頂き、より多くの方々と話をさせて頂くことができた。また、休憩時間をはじめセッション外の時間では、私達参加メンバー各自の行動を尊重しながらも、気さくに話しかけて下さり、大変ありがたく感じた。

ぜひ今後も支援プログラムを継続して頂きたい。そして経験者の一人として、微力ではあるが、必要とあらば喜んでお手伝いさせて頂く所存である。